

魅力アップ小海町～井とお菓子でおもてなし～

取組に至る背景・事業の目的

- 平成 19 年に町営の温泉施設「八峰の湯」が開業したものの、観光客のニーズに応えられる町の名物や土産品がなかったため、平成 20 年度に地域発 元気づくり支援金を活用し、町民参加による「小海ブランド創生研究会」を開催し、ワークショップ形式で町の地域資源の掘り起こし等を行った。
- この研究会に参加した町民により、食のまちづくり、加工品、農林業と観光の 3 つの商品開発に取り組む部会が組織され、これらの分野ごとに地域資源を用いた商品等の開発に着手できたことから、こうした商品開発活動を支援し、町のブランド推進を図ることとした。



【「小海の○印」セット】

事業内容

- 小海ブランド商品の開発
 - ・小海らしい特色ある井物「小海ハイブリッド井」の開発及び料理コンテストの開催
 - ・地元の食材を使用した漬物やお菓子等の新商品の試作開発
 - ・農林業体験型観光の開発のためのモニターツアーの開催
- 町のブランドの確立と産業活性化を目指した「小海ブランド推進協議会」の設立
- 統一された小海ブランドの作成及び周知



【小海ハイブリッド井】

事業効果

- 小海の人々の輪が作った商品を厳選した意味を込めた町の新ブランド「小海の○印」が創設され、この新ブランド商品として、新たに開発された南蛮味噌、八峰漬、トマトジャム、ほおずきジャム、ラー油にんにく等のセット商品を新聞やホームページ等で広報を行い、好評であった。
- 開発した井は、信州ポーク、信州味噌、白菜、ヤーコン、長芋、エノキ、はくれい茸等諸々の地元食材を使用しているため、小海線ではハイブリッド車両が走っていることから「小海ハイブリッド井」と名付け、町内 1 店舗で提供開始された。
- 花豆パイ・花豆ゆべし、野菜まんじゅうなどが開発され、町の直売所等で販売された。
- 農業体験モニターツアーの開催により、松原湖高原の貸農園「八峰村」のオーナーが増加した。



【農業体験モニターツアー】

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

- 「小海の○印」商品の開発の推進により、ブランド化を進めたい。
- 「小海ハイブリッド井」の店舗や野菜まんじゅうのバリエーションを増やしていきたい。
- 「八峰村」のオーナーを増やし、都市と農村の交流を進めたい。
- 交流人口の増加とおもてなしの充実を図り、小海町の魅力をさらに伝えていきたい。

【選定のポイント】
一連の取組により「小海の○印」という新たなブランドが構築され、町の特産品の周知が図られた。

団体名	小海町	事業タイプ	ソフト事業
連絡先	総務課企画係	事業費	2, 524, 390円
	電話 0267-92-2525	支援金額	1, 503, 000円